

研究協議会

知的障害教育における 探究的な学びの創造

〈2年次〉

本校では、令和7年度より「知的障害教育における探究的な学び」をテーマに研究に取り組んでいます。今年度は、幼稚部から高等部までの授業実践を通して、知的障害のある子どもにとっての「探究的な学び」とは何か。それは日々の授業の中でどのように生まれ、深まっていくかを模索してきました。本研究協議会では、各学部の実践をもとに、その姿や可能性について皆様とともに考えます。



記念講演

探究的な学びとコミュニケーション 藤野 博 先生

(東京学芸大学教職大学院 教授)

探究的な学びにおいて、子どもが自ら問いをもち、経験を振り返りながら考えを深め、他者との関わりを通して新たな気付きへとつなげていくためには、ことばやコミュニケーションの働きが重要になります。とりわけ知的障害のある子どもにとっては、自分の思いや考えを表したり、相手のことばを受け止めたりする過程そのものが、学びを広げる大切な契機となります。本講演では、言語・コミュニケーションの発達と支援を専門とする藤野博先生をお迎えし、知的障害のある子どもの特性を踏まえながら、探究的な学びを支えるコミュニケーションのあり方や、教師に求められる支援について考えます。

令和9年

1/22
Fri

【会場】

東京学芸大学附属特別支援学校
成美教育文化会館

後援：東久留米市

参加申込み / ご来校案内

申込み締切 ▶ 令和9年1月15日（金）

参加費 ▶ 2,000 円（当日現金支払い）

申込みフォームから、特別講演会・分科会の希望を入力してください。
申込み後のご案内は、登録されたメールアドレス宛てにお送りします。
@u-gakugei.ac.jp から受信ができるように設定をお願いいたします。

申込みフォームはこちら



参加先の調整

●特別講演会および分科会は、希望者多数の場合、申込み状況に応じて参加先を調整することがあります。

昼食・上履き

●昼食は各自でご持参ください。各分科会会場を昼食場所としてご利用いただく予定です。
●上履きをご持参ください。

参加費・領収書

●参加費は2,000円です。当日の受付にて支払いをお願いいたします。
現金のみの対応となります。お釣りのないようご協力ください。
●領収書は参加費のお支払い時にお渡しします。

変更・キャンセル

●お問い合わせ先メールアドレス
[sskenkyu@u-gakugei.ac.jp] までご連絡ください。

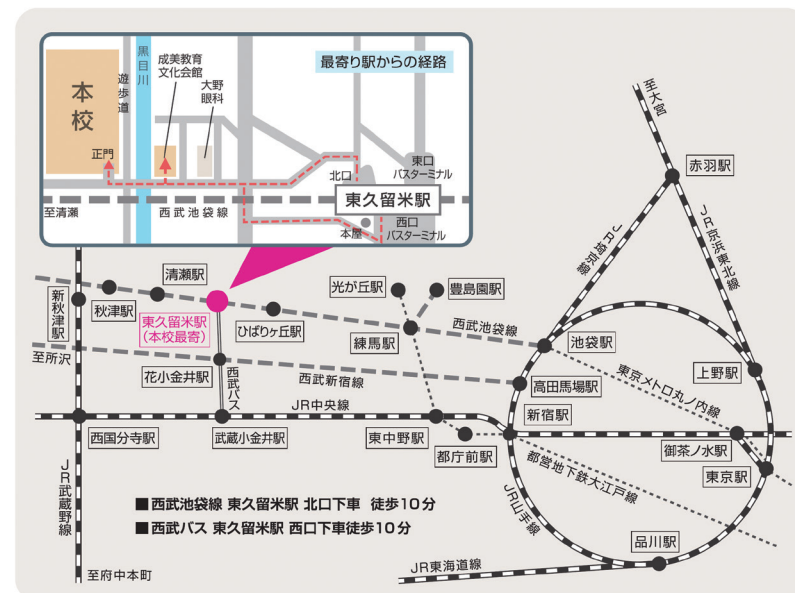
クローク

●成美教育文化会館に設置します。
16:15までにお荷物をお受け取りください。

開催形式・来校方法

●対面開催での実施です。配信は行いません。
●駐車場・駐輪場の用意はありません。
公共交通機関をご利用ください。

アクセス



【個人情報の使用目的について】
本フォームでご記入いただいた個人情報（氏名・ご連絡先など）は、本会開催に関わるご連絡・ご案内のために使用いたします。そのほかの目的には使用しません。

東京学芸大学附属特別支援学校 担当者：研究主任 菊池優貴乃

〒203-0004 東京都東久留米市氷川台 1-6-1 TEL: 042-471-5274 FAX: 042-471-5275

<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~tokushi/>



ごあいさつ

学 長

佐々木 幸寿

東京学芸大学 学長

東京学芸大学附属特別支援学校は、我が国でも古い歴史をもつ特別支援学校として、日本の知的障害児の教育研究を先導してきました。本研究議会は、「知的障害教育における探究的な学びの創造」を研究テーマに掲げて2年目を迎えました。子どもたちが自ら問いを抱き、世界と出会う「探究的な学び」の重要性は増すばかりです。子どもたちの発達段階に応じて、その内発的な意欲に寄り添った教育実践の在り方を考えることは、これからの教育にとって重要な示唆を与えるものです。幼稚園から高等部までの全学部による公開授業や分科会を通じ、豊かな議論が交わされることを期待しております。多くの皆様にご参加いただき、実り多き学びの場としていただきたいと思います。

校 長

奥住 秀之

東京学芸大学
特別支援科学講座 教授

日頃より、本校の教育・研究に関心をお持ちいただきまして、誠にありがとうございます。本校が「知的障害教育における探究的な学びの創造」というテーマで研究を開始して2年目となりました。教育的ニーズ、障害特性、認識の発達段階などきわめて多様な状況にある幼児・児童・生徒に対して、探究的な学びをどのように創造し、教材化し、展開するか。そして、「多様性を包摂」する探究的な学習の在り方は何か。東京学芸大学の特別支援科学講座や特別支援教育・教育臨床サポートセンターの先生方のご指導・ご助言を受けつつ、本校教職員が取り組んできた実践と研究の成果をこの研究協議会で示したいと思います。皆様にお会いできることを楽しみにしております。

■タイムテーブル

成美教育文化会館	9:10～9:30	受付
	9:30～10:00	全体会
10:00～10:10 移動 成美教育文化会館 → 本校（徒歩5分）		
東京学芸大学附属 特別支援学校	10:10～11:00	研究授業・公開授業
	11:10～12:00	特別講演「探究的な学びを支える知的障害の基礎研究」
	12:00～12:40	昼食・休憩
	12:40～14:10	分科会
14:10～14:30 移動 本校 → 成美教育文化会館（徒歩5分）		
成美教育文化会館	14:30～16:00	記念講演「探究的な学びとコミュニケーション」

特別講演【探究的な学びを支える知的障害の基礎研究】

テーマ 知的障害と実行機能



池田 吉史 先生

（東京学芸大学特別支援科学講座）

考えを切り替える、見通しをもつ、行動を調整するー「実行機能」の視点から、子どもの行動の「なぜ」をひもとき、学びを支えるヒントを探ります。

テーマ 知的障害と概念の理解



平田 正吾 先生

（東京学芸大学特別支援科学講座）

ことばや物事の意味をどのように捉え理解していくのかー「概念の理解」の視点から、子どもが世界をどのように捉え、学んでいるのかに迫ります。

テーマ 知的障害と教授・学習



村山 拓 先生

（東京学芸大学特別支援科学講座）

子どもはどのように学び、教師はその学びをどう支えるのかー「教授・学習」の視点から、授業づくりの手がかりを探ります。

特別講演は、3つの講演から1つをお選びいただき、申込フォームにてご希望をお知らせください。なお、申込状況により、ご希望に添えない場合があります。

研究授業

学部	学年・グループ	教科	単元・題材名	担当指導教員
幼稚園	ひかり組	音楽・リズム遊び	「鬼のパンツであそぼう」	森敦子、鮎川翔、溝江有里子、小家千津子
小学部	そら組・うみ組 （3～6年生）	体育	「みんなでジャンプ！」	小島啓治、櫻井希、矢野咲香、藤田貴史
中学部	全学年	総合学習	「学習発表会の内容について 調べてまとめよう」	松田愛理子、柴田琢磨、菊池優貴乃、 伊藤貴史、内城あまね、宮城莉央、奈良崎有紀
高等部	全学年	進路	「進路研究会を開こう」	片岡真悠、山内裕史、折原さくら、小田滋大、 蓮香美園、表賢司、松井洸樹、富山正人、眞田雅実

研究授業と同時刻に、小学部（ほし組）では「音楽」の授業も公開しております。各授業の詳細につきましては、当日配布する大会要項をご覧ください。

分科会について

幼稚園

「好き」がつながり、遊びが広がる
～幼児の響き合いを中心とした支援の検討～
共同研究者：橋本 創一**、松本 幸代*、村尾 愛美*

幼児にとって好きな遊びがあることは、興味や関心を引き出す手がかりとなり、さらに探究する姿に繋がると考える。2年次は、幼児が好きな遊びを楽しむ中で、友達遊びに気付いたり、興味をもったり、真似たり、遊びを共有したりして響き合う姿に着目してきた。そして、幼児が影響し合いながら遊びを広げていく過程を観察し、エピソード記録を作成したり、集団遊びを設定したりして、遊びがつながり広がっていくための支援や環境の構成について検討してきた。分科会では、幼児の響き合いを大切にした教師の支援について協議していく。

小学部

探究的な学びの視点で捉え直す授業づくり
共同研究者：小林 巖**、平田 正吾*、村山 拓*

小学部では、昨年度の「本校小学部が考える探究的な学びの捉え方」のサイクルを実装し、授業検討会を通して探究的な学びを捉えてきた。また、探究的な学びを支える教材教具について検討を重ねるとともに、学習環境の調整についても実践を積み重ねてきた。分科会では、昨年度の研究を踏まえ、【サイクル】【学び】【環境】のそれぞれの視点から、小学部段階における探究的な学びの視点での授業づくりについて協議していく。

中学部

生徒が主体的に「調査」し「まとめる」力を育む段階に応じた支援方法の検討
～中学部「総合学習」での「探究的な学び」を中心に～
共同研究者：池田 吉史*、田中 美歩*、濱田 豊彦***

中学部では、「総合学習」として「探究的な学び」を実施している。今年度は「探究的な学び」のサイクルの中の「情報の収集」「整理・分析」の活動に、生徒がより主体的に取り組むことのできる指導・支援方法の検討を行っている。これまでに実践した第1期・第2期の実践と当日の公開授業でご参観いただいた第3期の実践を踏まえ、知的障害を有する生徒が、主体的に探究的な学びに参加できる方法を協議していく。また、「探究的な学び」につなげる日々の授業実践についても提案を行う。

高等部

探究的な学びにおける職業適性の自己理解を深める支援の在り方に関する一考察
～自己選択・自己決定につなげる進路学習を通して～
共同研究者：池田 一成**、内海 友加利*、大鹿 綾*

高等部では、卒業後の生活を見据え、自分の可能性や職業適性について理解を深め、自分に合った進路を主体的に選択・決定できるようになることを目指し、「進路の学習」を設定している。今年度も、本校研究主題である「探究的な学び」に着目し、作業学習や校内実習、現場実習での経験や評価を整理・分析することで、自身の強みや職業適性への理解を深める授業実践について引き続き検討している。分科会では、職業適性における自己理解を基盤とした自己選択・自己決定の過程に焦点を当て、高等部3年間を見通した進路学習の在り方について協議していく。

【全体共同研究者】澤 隆史*、藤野 博*** *東京学芸大学特別支援科学講座 **東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター ***東京学芸大学教職大学院